第 68 回

関西社会学会大会

プログラム

第 1 日　2017 年 5 月 27 日（土）

第 2 日　2017 年 5 月 28 日（日）

開催校

神戸学院大学

一般研究報告 A（部会口頭報告）の報告者の方へ、事務局からお願い

・報告者は部会開始時間の 5 分前までに会場に集合して、司会者と打ち合わせをしてください。

・１報告あたりの報告時間は 25 分です。

・会場および周辺では配布資料のコピーサービスはできませんので、報告者は 50 部程度ご用意ください。

・報告申込の際に情報機器の使用を希望した報告者の会場には、プロジェクタ他の当該機器が備えられています。パソコンはご自身で持参してください。（ただし開催校でも部会の部屋ごとに WINDOWS 8.1 のノートパソコンを用意します。マイクロソフト・オフィスのバージョンは 2013 です。ご利用の場合は USB メモリなどを持参してください。）プロジェクタとパソコンを接続するケーブル（HDMI ケーブル）は備わっています。Mac をご利用の場合はアダプタもお持ち下さい。

・機器や接続には故障や不具合が生じる場合があります。万一に備え、機器なしでも滞りなく発表できるようにご準備ください。**機器を利用する方は、部会の始まる 20 分前に報告教室にお集まりいただき、その教室で機器が正常に作動するかを確認してください。**

・大会奨励賞受賞者は、大会第 2 日（5 月 28 日）のシンポジウム終了後、シンポジウム会場（D 号館 306、312 講義室）で発表します。

一般研究報告 B（ポスター報告）の報告者の方へ、事務局からお願い

・ポスターセッションの会場は、D 号館３階のアクティブスタジオです。

・部会開始時間の 5 分前までに会場に集合して、監督者と打ち合わせをしてください。

・報告時間は 1 時間 30 分です。時間中は基本的にポスターの前にいて、質疑応答を行ってください。やむを得ない事情でポスターから長時間離れる場合は、かならず監督者にその旨を伝えてください。

・配布資料はご自身でご用意ください。

・その他部会の進行については、監督者の指示にしたがってください。

＜参加費用＞

大会参加費： 2,000 円

懇親会費： 5,000 円（一般）、3,000 円（学生）

第１日　 5月２７日（土）

◆受付開始　１３：３０　（D 号館３階）

研究報告Ⅰ　５月２７日土曜日午後　１４：００〜１６：３０

１．理論・学説（１）　　（D 号館 307 講義室）　　司会：林大造（追手門学院大学）

１．パーソンズ社会学・トッド人類学の収斂についての試論
　　―「サイバネティクス」概念を中心にすえて―　　小川晃生　神戸大学

２．アーネスト・バージェス博士論文における社会化研究
　　―シンボリック・インターラクショニズムの祖型を読む―　　鎌田大資　椙山女学園大学

３．戦時下日本のウェーバー受容の再検討
　　―大塚久雄を中心として―　　吉琛佳　京都大学

４．象徴的メディアの機能的分化
　　―近世大坂の「コメ」の動態―　　碓井崧　金沢大学

２．文化（１）　　（D 号館 308 講義室）　　司会：石田佐恵子（大阪市立大学）

１．映画制作者集団における特撮技師の地位に関する考察
　　―場の理論とワールドの理論の比較と分析への応用―　　真鍋公希　京都大学

２．ポピュラーカルチャーの国内近況に見る親密圏再定義の可能性
　　―登場人物相関図や家族形態の多様化を読み解きながら―　　佐倉智美　甲南大学

３．ラジオに現れた「漫才」
　　―戦前期 JOBK における演芸番組の構成に着目して―　　後藤美緒　日本大学

３．エスニシティ・地域研究　　（D 号館 315 講義室）　　司会：高谷幸（大阪大学）

１．外国人技能実習制度の課題に関する一考察
　　―ベトナム人若年層の日本就労意識に関する調査から―　二階堂裕子　ノートルダム清心女子大学

２．移住システムとしてのフィリピンの韓国系英語学校
　　―韓国系英語学校は留学生の移動をどう形づけているか―　　李定恩　立命館大学

３．ブラジル人児童生徒に対する教育課題の変容
　　―石川県小松市での聞き取り調査から―　　俵希實　北陸学院大学

４．現代フランスにおける「個人型イスラーム」
　　―社会的に成功する新しい世代のムスリムの事例から―　　山下泰幸　京都大学

４．自己・他者・若者　（D 号館 310 講義室）　司会：太郎丸博（京都大学）

1．SNS における継続的表出の機能
　—「状況の定義」の表明—　若狭優　神戸大学
2．「参加していない若者(the unattached youth)」の発見
　—1960 年代イギリス地方当局・有志組織の活動分析から—　井上慧真　京都大学
3．若年層における現在志向が自己評価に与える影響
　—生活満足度と主観的自由に注目して—　狭間諒多朗　大阪大学
4．現代日本社会における承認に関する意識についての考察
　—他者との関係性に着目して—　智原あゆみ　関西学院大学

５．社会問題　（D 号館 311 講義室）　司会：佐藤哲彦（関西学院大学）

1．「ごみ屋敷」から見るごみとモノの境界
　—当事者 A さんの事例から—　梅川由紀　大阪大学
2．「共に学ぶ」実践における秩序構築の過程
　—「不利益をめぐる政治」の視点から—　久保田裕斗　京都大学
3．「古い認知症ケア時代」はいかに転換し、何を残したのか
　—回顧的なインタビューの分析から—　木下衆　大阪市立大学
4．失踪者の失踪動機と生活世界
　—失踪経験者のライフストーリー分析を中心に—　中森弘樹　日本学術振興会

◆若手企画部会　（D 号館 306 講義室）　１４：００～１６：３０

計量社会学の現状と課題　コーディネーター：大久保将貴（大阪大学）

1．そろえて、比べること
　—計量研究における記述と説明のあいだ—　筒井淳也　立命館大学
2．都市の計量社会学
　—過去と現在—　赤枝尚樹　関西大学
3．なぜベイズを使わないのか
　—計量社会学におけるベイズ統計の可能性—　石田淳　大阪経済大学
4．"ゴミ缶回帰"撲滅作戦から見る実証政治学の動向
　—実験アプローチの隆盛と因果推論—　秦正樹　北九州市立大学
5．計量社会学の分岐点
　—予測、因果、あるいはその間—　大久保将貴　大阪大学

◆総会　１６：４５～１７：３０　（D 号館 312 講義室）

◆懇親会　１８：００～２０：００　（B 号館１階レストラン・ジョリポー）

第２日　5月２８日（日）

◆受付開始　　９：００　（D 号館３階）

研究報告Ⅱ　５月２８日日曜日午前　　９：３０～１２：００

６．理論・学説（２）　（D 号館 307 講義室）　司会：岡崎宏樹（神戸学院大学）

１．戦後日本における母性研究の理論的整理と課題の検討
　―「エンパワメントする母性」の可能性―　元橋利恵　大阪大学

２．継時的プロセスとしてのナショナリズム
　―ガッサン・ハージの研究に着目して―　鈴木赳生　京都大学

３．近現代沖縄における自立論
　―資本投下と内発的発展の狭間で―　持木良太　大阪府立大学

７．文化（２）　（D 号館 308 講義室）　司会:山本昭宏(神戸市外国語大学)

１．相馬御風における「清貧」の人間像としての良寛
　―文学者の立身出世意識に着目して―　伊藤すみれ　京都大学

２．負の出来事と社会の再生
　―原爆ドームの保存と広島平和記念公園の建設を通じて―　濱田武士　関西学院大学

３．20 世紀前半の日本における都市富裕層の芸術に対するフィランソロピーの理念と実践
　笹島秀晃　大阪市立大学

８．教育・労働　（D 号館 315 講義室）　司会：長松奈美江（関西学院大学）

１．能力観の日英比較
　―サミュエル・スマイルズ『西国立志編』を手掛かりに―　大川清丈　帝京大学

２．大卒就職機会における学校歴仮説とコミュニケーション能力
　―インターネット・パネル調査による計量分析の試み―　吉岡洋介　千葉大学

３．労働者意識をとらえる　〇歸山亜紀　群馬県立女子大学
　―労働組合員意識調査の整理から―　田邊浩　金沢大学

４．学校選抜度は賃金にどのような影響を与えるのか
　―世代内偏差値の導入の試み―　山本耕平　京都大学

９．都市　（D 号館 310 講義室）　**司会：山北輝裕（日本大学）**

１．「都心回帰」による大阪市の地域変容（１）
　―大阪市中央区住民の価値意識・政治意識を中心に―　鯵坂学　同志社大学
２．「都心回帰」による大阪市の地域変容（２）
　―北船場のプライド・集英地区のコミュニティ―　杉本久未子　大阪人間科学大学
３．「都心回帰」による大阪市の地域変容（３）
　―都市の中の田舎　桃園地区のコミュニティ―　柴田和子　龍谷大学
４．「都心回帰」による大阪市の地域変容（４）
　―都心商業地区における地域的課題：大宝・道仁地区の事例―　八木寛之　神戸山手大学
５．「都心回帰」による大阪市の地域変容（５）
　―大阪インナーシティの新華僑経営者とコミュニティ―　陸麗君　大阪市立大学

１０．地域社会　（D 号館 311 講義室）　**司会：足立重和（追手門学院大学）**

１．地方の教育期家族
　―「家族実践」の視点からの考察―　片岡佳美　島根大学
２．地方社会における新たな周辺の形成
　―背景にある JA 合併に着目して―　中島隆博　神戸大学
３．建築家と地域づくり
　―市民としての社会参加と専門職サービスの相克―　松村淳　関西学院大学
４．「地域おこし協力隊」という「居場所」　井戸聡　愛知県立大学

１１．政治　（D 号館 316 講義室）　**司会：松谷満（中京大学）**

１．「歴史」を「ディベート」する
　―歴史修正主義の知性構築とメディア―　倉橋耕平　立命館大学
２．フランスにおける男女同数（パリテ）議会を推進する市民活動の担い手
　―フェミニストを自称しない女性たちの語りに着目して―　村上彩佳　日本学術振興会
３．国家ブランディング研究の動向と課題
　―ナショナル・アイデンティティの再構築の考察に向けて―　喜多満里花　大阪市立大学
４．生活保護への否定意識の規定要因　○伊藤理史　立命館大学
　―近接性とメディア利用に注目して―　永吉希久子　東北大学

◆一般研究報告 B（ポスター報告）　（D 号館３階アクティブスタジオ）　１１：３０～１３：００

１．高知県高岡郡梼原町の移住定住戦略と区長制
　―変容する地域社会と伝統的自治組織―　佐藤友光子　四国学院大学
２．神社祭祀の強調によるローカル・アイデンティティの形成
　―「さぬき豊浜ちょうさ祭」の事例より―　倉田健太　総合研究大学院大学
３．地方の高校における地域志向教育
　―島根県の事例から―　白石絢也　SPRED

◆シンポジウム　　　　　　　１３：００～１６：００

シンポジウム１「歴史経験の語られ方、記憶のされ方」　（D 号館 312 講義室）

司　会　　　　　　　蘭信三（上智大学）

今井信雄（関西学院大学）

登壇者および報告タイトル

１．済州４・３を語る、済州４・３から語る　　　　　　伊地知紀子　大阪市立大学

２．死を経て宿る「魂」の記録

―東日本大震災における歪められるべき記憶―　　　　金菱清　東北学院大学

３．負の遺産を記憶することの（不）可能性　　　　　　松浦雄介　熊本大学

討論者　　　　　　　坂部晶子　名古屋大学

荻野昌弘　関西学院大学

シンポジウム２「社会学と障害学の対話」　（D 号館 306 講義室）

司　会　　　　　　　山田富秋（松山大学）

登壇者および報告タイトル

１．「軽度障害」概念を通した、インペアメントのディスアビリティ概念への包摂

秋風千惠　大阪市立大学

２．障害児教育の社会学的分析におけるディスアビリティ概念の位置と機能

佐藤貴宣　日本学術振興会

３．ディスアビリティとインペアメント

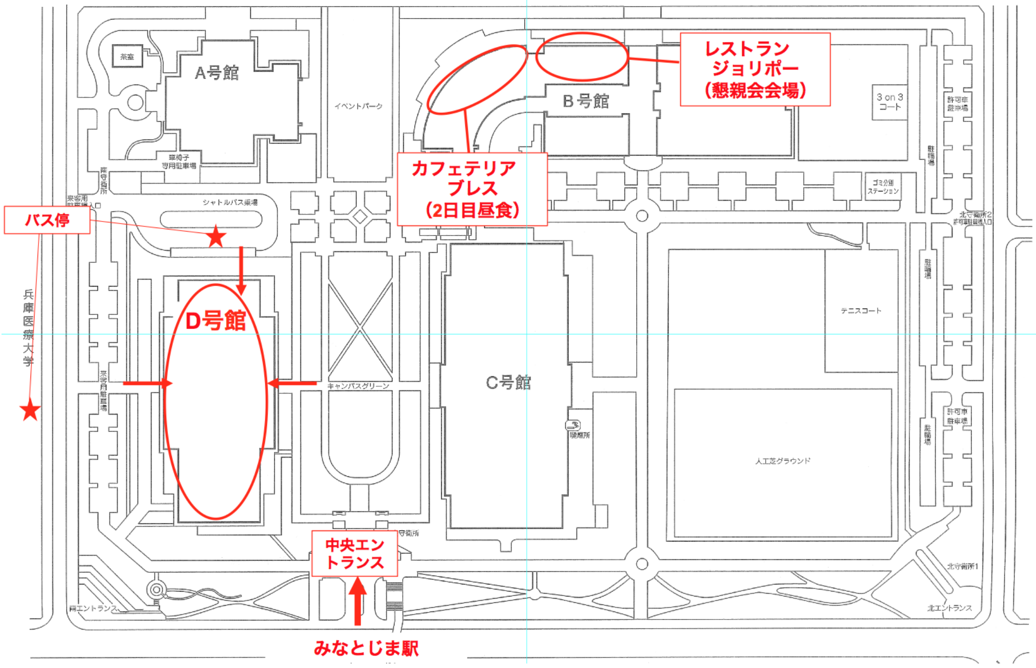
―精神障害・発達障害の困難経験からの検討―　　　　浦野茂　三重県立看護大学

討論者　　　　　　　西倉実季　和歌山大学

神戸学院大学ポートアイランドキャンパス・アクセスマップ

◆モノレール
三宮（神戸新交通ポートライナー）からみなとじま駅下車　約 9 分　（毎時 5 分おき発車）
西へ徒歩約 6 分

◆シャトルバス
「三宮（そごう前・キャンパス線)」から「ポートアイランドキャンパス行」約 14 分
（8 時から 13 時までは、およそ毎時 0 分、15 分、30 分、45 分発）



※大会会場周辺には昼食を取る場所が少ないため、各自ご持参いただくか、昼食会場（カフェテリアブレス）をご利用ください。

[大会期間中の託児室のご案内]

本大会では大会期間中、D 号館 2 階に託児室（有料）を設置します。利用は事前に申込みをされた方に限らせて頂きます。利用をご希望の方は、関西社会学会ホームページをご覧になり、利用要領をご了解のうえ、5 月 12 日（金）17:00 までに大会実行委員会へお申し込みください。